

令和元年6月
一橋大学

平成31年度一橋大学一般入試（前期日程）第二次試験

出題の意図等 【国語】

問題一

現代文の読解力を試す問題である。人間を性善的、道徳的であるとする見方は価値付けされた見方であって、人間の行いはすべて人間的なのだという認識が必要だということを述べた文章である。

問一 内容を理解した上で語彙を的確に選択し、かつ漢字を正確に書く能力をみる。解答例は A 衝動 B 輪郭 C 相場 D 退廃 E 符丁

問二 人間および人間的なものの意味内容が文の展開とともに変化していくことを正確に読み取れているかを問う。

問三 筆者が人間および人間的という言葉それぞれの具体的な話題のなか、どのような意味において使用しているかを問う。文脈を正確に読み取り、限られた字数で的確な説明をすることが必要である。

問四 人間の行為はすべて人間的なのだという著者の主張を、規定の字数で過不足なく答えられるかを問う。部分的な話題を正確に理解し、それらがどのような繋がりを持ち、文章全体の論旨を構成しているかを理解している必要がある。

問題二

いわゆる近代文語文は、近代の日本社会に深く関係している。そうした文章の読解力を試す問題である。明治期の外国人による古書画収集の流行に対する日本人側の態度を批判し、国を富ませることが先決だと主張した文章である。

問い一 現在とは異なる意味で用いられている単語の意味を、前後の文脈から推測する力をみるものである。アは「考え」など、イは「いま」などが適当である。

問い二 日本の古書画と外国人の関係について、傍線部以前に述べられている内容を正確に把握できているかをみるものである。流行に乗じて外国人に売り、あとで安値でより多く買い戻す、というようなことが、規定の字数で過不足なく答えられるかを問う。

問い三 全体の議論をふまえて筆者の主張したいことを正確に把握できているかをみるものである。「古癖先生」が現実を適切に認識せず、的外れなことをしている点を二点抽出したうえで、簡潔に答えられるかを問う。

問題三

文章全体の論理を正確に読み取る読解力と、それを二〇〇字で要約する文章表現力とを問うことを意図している。素材となる文章は、十九世紀から二十世紀にかけてのアメリカの大学において、研究者たちが「学問の自由」をどのように獲得してきたかを概観するものであり、そこでは、社会科学では大学経営陣との交渉によって、自然科学では基礎研究という「神話」を案出することによって、「学問の自由」が獲得されたこと等が述べられている。この文章の内容を二〇〇字の解答制限のなかで要約するには、ただ単に論点を列挙するだけでは不十分であり、それらを元の文章の論理構造に沿って再構成したうえで、新たな文章として表現する必要がある。